

令和4年度 学校経営計画・学校評価

☐4月5日提出 ☐10月3日提出 ☒3月15日

学校番号	11	高知農業高等学校	課程	全
学校関係者評価				
【学力の向上】 評価 【 B 】				
・分かりやすい授業をしている:75.8% ・学校の授業は、よく理解できる:73.6% ・授業態度が良いと思う:76.0% ・必要な進路情報が提供されている:77.7% ・きめ細やかな進路指導ができています:70.6% ・家庭学習は必要だと思う:68.9% ・授業でグループ等で考えたり発表する場面がある:80.2%				
【社会性の育成】 評価 【 A 】				
・学校生活が充実している:84.5% ・適切な生徒指導を行っている:76.9% ・いじめ対策に取り組んでいる:68.9% ・学校行事は楽しく充実している:83.9% ・部活動の活性化に積極的である:78.2% ・相手の気持ちを考えて行動している:93.3% ・ホームルームでは安心することができる:88.8%				
【チーム学校】 評価 【 A 】				
・教職員が協力して運営している:78.8% ・公平に生徒指導している:70.3% ・安全管理に積極的である:73.2% ・心身の相談に適切に対応してくれる:75.2% ・部活動の活性化に積極的である:78.2%				

【評価基準:A:肯定評価75%以上 B:肯定評価70%以上 C:肯定評価70%以下】 県オリジナルアンケート、学校評価アンケート結果

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標（評価指標）	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	【基礎学力の向上及び進路実現】 1 基礎学力の定着及び向上 ○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度（学習習慣を含む） 2 進路指導の充実	【基礎学力の向上及び進路実現】 評価指標：「学力向上」肯定評価70%以上 1 基礎学力の定着 ＜基礎学力診断テスト結果＞ 1年D3層1回⇒2回 国語：3.8%⇒1.3% 数学：14.2%⇒14.7% 英語：18.1%⇒21.4% 県目標の10%以下に届いていない。一方で国語のA・B層が増加している。また、英検の受験者数が年々増加し上級へのチャレンジ、合格生徒が増加している。（受験者数：R1:26人R2:46人R3:42人） 2 進路実現 ＜3年生進路実績＞ 就職：96%（公務員延べ10人）進学：98%（愛媛大学農学部、高知大学等国立大学に6名が合格）	【基礎学力の向上及び進路実現】 基礎学力及び家庭学習時間の定着に向けての取組の継続 ①観点別評価の導入に向け生徒への十分な説明を行う。（学習意欲や態度を高揚させる。） ②家庭学習時間向上への手立て（タブレットの活用） ・タブレットを活用した個に応じた課題の提示 ・タブレットを活用し自宅で取り組む課題や宿題の提示 ③キャリアパスポートを活用し、早期に進路目標を設定させる。 ④外部人材を活用した上位層の引き上げ	B 1 観点別評価の運用に向けて、中間検査で検証を行った。 2 デジタルドリル「すらら」導入に向け英・数で第1回の学力診断テストを実施した。 3 学習支援員を活用することで、基礎力の定着及び学力向上につながった。（1学期の欠点保持者の減少）	1 「観点別評価」の各観点における教員の「見取る」力の向上（指導と評価の一体化） 2 デジタルドリル「すらら」の活用を推進し基礎力及び家庭学習時間の定着を図る。	B 1 観点別評価については、生徒・教員とも定着した。 2 次年度の積極的な活用に向け「すらら」の校内研修を実施した。 3 3年生が進路実現を果たした。	1 「すらら」を活用した基礎学力の定着 ①活用に向けた体制づくり②活用方法 2 就職と国立・公立大学等への進路希望に応えられる進路指導の充実 ①キャリアパスをデジタル化し進路指導に活用 ②学習支援員を活用した上位層の引き上げ ③校外学習の推進（地域、企業、専門学校・大学等との連携）
社会性の育成	【社会的・職業的に必要な力の育成】 1 コミュニケーション能力の育成（かかわる力） 2 キャリアデザイン能力の育成（やりぬく力）	【生徒の社会的・職業的自立に必要な力の育成】 評価指標：「社会性の育成」肯定評価70%以上 ・コロナ禍のため、計画していた、体育祭、ふれあい市、修学旅行等大きな行事が中止となった。（ホームデー、高農フェスタ（校内のみ実施） ⇒ホームデーでは、クラスや科の団結が強まり、高農フェスタでは、行事の運営方法等の学びがあった。 ・令和3年度学校評価アンケート結果⇒満足度：76.0%	【生徒の社会的・職業的自立に必要な力の育成】 ①新しい生活様式に沿った高農本来の行事の実施 ②コロナ禍での仲間づくりの活動を工夫し実施 ③地域の住民や大学や企業等との連携・協働（リモートの活用や企業とコラボした商品開発等） ④インターンシップ等の校外活動を通した社会性の育成	B 1 前年度コロナ禍で中止していたふれあい市を6月に開催し盛況であった。 2 前年度中止していた学校行事を再開する予定。（体育祭、高農フェスタ、2・3年生修学旅行を実施予定） 3 夏季休業中に企業見学、インターンシップが実施できた。	Withコロナでの行事や地域との連携を再開し、生徒の社会的・職業的に必要な能力を育成	A 1 保護者限定であるがふれあい市が開催できた。 2 学校行事の再開（体育祭、高農フェスタ、2・3年生修学旅行） 3 インターンシップや校外での職場見学等各科の学習活動がコロナ前に戻った。	1 Withコロナでの高農本来の行事の実施 2 インターンシップ、企業見学、地域との連携の実施をコロナ前の通常に戻す。 3 地元の保・幼・小・中との連携

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標（評価指標）	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	【授業改善の取組の推進】 ①学校支援チームと連携し「授業改善」に取り組む。 ②新教育課程に対応した授業の実践 ③タブレットを活用した授業づくり ④観点別評価の推進（生徒・保護者への説明責任）	【全科で授業改善に取り組む】 評価指標：「学校評価アンケート」授業改善の項目肯定評価70%以上 ①学校支援チームと連携した公開授業を実施し他者評価を行った。（異教科の参観授業後、レポートの提出） ②新教育課程に対応したシラバスが完成した。 ③令和4年度から導入するタブレットの活用方法に関する研修及び研究が推進された。 ④観点別評価の研修を行い令和4年度実施に向けて各科で運用について方向性が決まった。	【授業改善の取組の推進】 ①学校支援チームと連携し「授業改善」に取り組む。 ②新教育課程に対応した授業の実践 ③タブレットを活用した授業づくり ④観点別評価の推進（生徒・保護者への説明責任） ⑤先進校の視察及び校内研修の充実	B 1 授業でのChromebookの活用に向け、校内研修を4回実施した。授業においてICT機器の活用は、浸透しつつある。 2 1年生1学期の観点別評価は、各教科や教科主任会等で検討を重ねたため滞りなく実施ができた。	1 教員のChromebook等のICT活用の技術の向上 2「指導と評価の一体化」に向けた授業改善を推進することで観点別評価の改善を図る。 3 ICTを活用した公開授業・参観授業の実施	B 1 Chromebookの校内研修に積極的に参加する教員が増加した。 2 Chromebook等のICT活用を活用した授業改善が進んだ。	1 ICTを活用した授業改善 2 ICT活用の技術の向上
生徒理解 生徒支援	【生徒指導・生徒支援の充実】 ①生徒支援体制の充実 ②生徒の活躍の場の設定	【生徒指導・生徒支援の充実】 評価指標：「学校評価アンケート」生徒理解・生徒支援の項目肯定評価70%以上 ①多様な生徒に対応した支援の体制が整った。 ・支援委員会の定期開催による情報の共有化 ・支援が必要な生徒へのチームでの支援ができた。 ② コロナ禍のため、校内外での生徒の活躍の場はが少なかったが、各種大会で優秀な成績を収めた。（農業クラブ全国大会優秀3名、高校生全国駅伝出場、高校生英語スピーチコンテスト1位等）	【生徒指導・生徒支援の充実】 ①面談の充実 ②多様化する生徒に応じた支援体制の更なる充実（安心して過ごせる学級づくり） ③コロナ禍における生徒の活躍する場の設定 ④高農三訓の更なる徹底	B 1 生徒支援委員会、いじめ防止検討委員会を定期的に開催し情報を共有を行った。（生徒は、落ち着いた学校生活を送っている。） 2 ホームマッチ等学校行事やふれあい市の再開により生徒の活躍の場が増えた。	1 多様化する生徒に応じた支援の継続 2 Withコロナでの行事を実施し、生徒の活躍の機会を設定	B 1 多様化する生徒に応じた支援が必要なケースがあった。 2 学校行事等が再開したため生徒の活躍の場が増加した。	1 多様化する生徒に応じた支援体制の充実 2 仲間づくりを意識した行事の計画 3 生徒支援に対する教員のスキルの向上
学校の振興	【スマート農業の推進及び関連する知識・技術の習得】 ①農業関連機関との連携 ②ICT機器の効果的な活用に向けた知識・技術の習得	【次のステップの「新たな農業を学ぶ」に挑戦】 ＜新たな農業の学びが各科であった。＞ ①環境制御型ハウスで収穫したトマトの糖度や収量の増加 ②フランスのシバンス高校との姉妹校の締結の準備が進んだ。 ③高知大と連携し先進技術の学習が進んだ。 ④国家試験（測量士補）の合格者の増加（R2:3人R3:8人）	【スマート農業の推進及び関連する知識・技術の習得】 ①高知大学、農業大学校、林業大学校との連携 ②IoT塾への参加	A 1 フランスのシバンス高校との交流が具体化した。（11月に本校に教員・生徒11名が来校予定） 2 高知大、農業大学校、林業大学校との連携事業は順調に進んでいる。 3 農業クラブ県大会で上位に入賞した。 4 様々な資格の取得にチャレンジした。 ※測量士補（国家試験）の合格率は100%	1 シバンス高校の11月の来校に向けた準備（交流内容の充実） 2 IoT塾の後期授業の受講（延べ50名の教員・生徒が前期の受講が終了した。10月より後期の受講開始。）	A 1 地元の大学や林野庁等の公的機関と連携しスマート農業の技術を学ぶことができた。 2 シバンス農業高校との交流が進化した。（11月にシバンスが来校及び2月にフランスへの訪問）	1 フランスの農業高校を核としたグローバル教育の推進 2 スマート農業に関連した知識・技術の習得 3 陸上部を核とした部活動の活性化 4 高知農業高校の魅力の発信 ①報道関係等での発信
働き方改革	【コロナ禍での新たな働き方の推進】 働き方改革に継続して取り組む（生徒・教員ともにICTの活用）	【ICTを活用した働き方の推進】 ①Google G Suiteの活用に向けての準備が進んだ。 ②「すぐー」を使った緊急時や必要時等の情報提供が推進された。 ③GWの活用が定着した。	【コロナ禍での新たな働き方の推進】 働き方改革に継続して取り組む（生徒・教員ともにICTの活用） ①業務整理及び分掌業務の平準化 ②ICTの活用（保護者宛連絡文書、緊急時の伝達、アンケート、安否確認、欠席連絡、緊急時の連絡、安否確認等）	B 1 「すぐー」の活用が定着した。 2 事務室の会計年度任用職員が、ホーム会計や印刷等の業務を行うことで、教員の業務の軽減ができた。	1 「すぐー」のアンケート機能の活用 2 業務の効率化を図ることで働き方改革を推進	A 1 1年間で「すぐー」の活用が定着し保護者等からも好評を得ることができた。 2 授業でのICT機器の活用が進んだ。	1 「すぐー」の活用の深化 2 事務室と連携した業務改善
産業教育の充実	【スマート農業の推進と関連する知識や技術の習得を目指し、農業の魅力、可能性を幅広く伝える。】 ①地域を支える人材の育成 ②地域のリーダーとなる人材の育成	【地域を支えるリーダーの育成】 ①GAPの維持認証（高評価） ②地域農家や食品製造会社と連携した商品開発やコラボ商品販売ができた。（こみべかりー、高知アイス、こっくらんど、農家レストラン等） ③高知大学、農業大学校、林業大学校との連携が進んだ。	【スマート農業の推進と関連する知識や技術の習得を目指し、農業の魅力、可能性を幅広く伝える。】 ①地元企業との連携の更なる推進 ②導入されるスマート農業関係機器の有効的な活用の推進	A 1 導入されたスマート農業関連機器を活用した授業実践を行った。（製茶、演習林実習、トマトの収穫・販売等） 2 昨年度、地元企業とコラボしたカレーパンの売り上げが順調であった。	1 学校行事や学習活動等をHPや「すぐー」にアップし学習成果のPRを行う。（農業高校の魅力発信） 2 スマート農業の更なる推進 3 地元企業や農家との連携	B 1 HPや「すぐー」を活用し農業高校のPRができた。 2 地元企業（井上ワイナリー、こみべかりー等）との連携が深化した。	1 地元企業との連携 2 スマート農業の更なる推進 3 将来の農業後継者や農業関連産業の担い手の育成